

函館短期大学の学生ボランティアによる地域経済効果

平成 27 年 9 月 25 日

I. はじめに

函館短期大学の学生が行うボランティア活動はどのくらいの経済効果を地域にもたらしているのか。この問いに答えようというのが本レポートの目的である。学生が行うボランティア活動に関して、本学は平成 23 年（2011 年）3 月 11 日の東日本大震災を契機に、基礎教育科目「ボランティア実習Ⅰ」「ボランティア実習Ⅱ」を新設して単位化した。それまで実態把握が難しかった学生のボランティア活動だったが、「ボランティア実習Ⅰ」および「同Ⅱ」の単位取得を希望する学生に報告書の提出を義務付けたため、本学学生のボランティア活動の実態把握が可能となった。平成 26 年度中に提出された同報告書を分析した結果、本学の食物栄養学科と保育学科で、延べ 229 名の学生が各種ボランティア活動に参加、平成 26 年度中の学生の総ボランティア時間数は 1,730 時間に上り、1 年間の本学学生のボランティア活動による経済効果は推計で 1,479,040 円に上ることが判明した。

II. 基礎教育科目「ボランティア実習Ⅰ」「ボランティア実習Ⅱ」について

本学では、平成 23 年 5 月 11 日付けの文部科学省及び厚生労働省からの「東日本大震災に伴う各学校養成施設等における学生・生徒のボランティア活動に関する単位付与について」と題した事務連絡をもとに、学則を改正して平成 23 年度後期より基礎教育科目に「ボランティア実習Ⅰ」「ボランティア実習Ⅱ」を新設し、本学学生によるボランティア活動を単位化した。

「ボランティア実習Ⅰ」は両学科の 1 年生の科目として、「ボランティア実習Ⅱ」は両学科の 2 年生の科目として設置した。「ボランティア実習Ⅰ」「ボランティア実習Ⅱ」のいずれも、担当教員（学科長）が承認したボランティア活動の累積時間数が 30 時間以上となった場合に 1 単位を認定することとした。ボランティア活動の実態を正確に把握するため、ボランティア主催者などの確認印が押された報告書の提出を学生に義務付けた。

Ⅲ. 集計方法と結果

平成 23 年度以降の「ボランティア実習Ⅰ」「ボランティア実習Ⅱ」の単位取得者数は表 1 のとおりだが、報告書を提出したものの、単位を取得しなかった学生が多数いるため、平成 26 年度中に両学科長に提出された延べ 229 名分の報告書の分析を行った。(ボランティア活動の時間数の集計にあたっては、分単位は切り捨てた。例：4 時間 40 分の場合、4 時間として集計)。

表 1 平成 23 年度以降の「ボランティア実習Ⅰ」「ボランティア実習Ⅱ」単位取得者数

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
食物栄養学科 ボランティア実習Ⅰ	0 名	7 名	1 名	0 名
食物栄養学科 ボランティア実習Ⅱ	0 名	4 名	3 名	1 名
保育学科 ボランティア実習Ⅰ	6 名	12 名	9 名	26 名
保育学科 ボランティア実習Ⅱ	3 名	3 名	13 名	6 名

学生 1 人で、複数のボランティア活動に参加しているケースがあるため、延べ 229 名分の報告書が実際には何名の学生から提出されたものなのか、学生の実数を調べたところ、表 2 のとおりであった。

表 2

学科 学年	食物		保育		合計
	1	2	1	2	
延べ人数	4	1	190	34	229
学生数	4	1	59	11	75

平成 26 年度中の年間のボランティア時間数とボランティアを行った日数をみると、表 3 のとおりであった。

表 3

学科 学年	食物		保育		合計
	1	2	1	2	
時間数	48	32	1377	273	1730
日数	12	4	279	75	370

本学学生のボランティア活動による地域経済に及ぼす経済効果を、平成 26 年度の北海道における最低賃金である 1 時間＝748 円で試算したところ、表 4 のとおり、ボランティア活動を時給換算した総賃金は 1,294,040 円となった。さらに 1 日＝500 円で交通費を試算したところ、交通費の総額 185,000 円となり、本学学生のボランティア活動による地域経済に及ぼす経済効果は、時給換算した総賃金と交通費の総額の合計で推計 1,479,040 円に上ることが判明した。

表 4

学科 学年	食物		保育		合計
	1	2	1	2	
賃金	35,904	23,936	1,029,996	204,204	1,294,040
交通費	6,000	2,000	139,500	37,500	185,000
合計	41,904	25,936	1,169,496	241,704	1,479,040

学生が参加したボランティア活動のうち、経済効果が高い順にその内容をみると、表 5 のとおり、1 位スポーツ教室、2 位スポーツ大会、3 位幼稚園、4 位特別支援学級・学校、5 位函館商工会議所行事の順番となった。

活動内容をみると、1 位のスポーツ教室は、障害児、障害者のスポーツ教室における教室開催の準備や後片付け、利用者支援など。2 位のスポーツ大会は、函館市内で開催されたハーフマラソン大会でのスポーツマッサージの手伝い、マッサージ用具の清掃、ランナー誘導、受付など。3 位の幼稚園は、幼稚園の運動会の準備や後片付け、審判など。4 位の特別支援学級・学校は、同学級・学校に通う児童・生徒とともに実施する企画の手伝いなど。5 位は函館市内で開催されたイベントのパレードの手伝いなどとなっている。

表 5

学科	時間数	日数	平均ボランティア 時間数	賃金	交通費	合計
スポーツ教室	452	113	4.0	338,096	56,500	394,596
スポーツ大会	284	50	5.7	212,432	25,000	237,432
幼稚園	243	52	4.7	181,764	26,000	207,764
特別支援学級・学校	236	59	4.0	176,528	29,500	206,028
函館商工会議所 行事	140	35	4.0	104,720	17,500	122,220
函館青年会議所 行事	107	12	8.9	80,036	6,000	86,036
小売業	76	9	8.4	56,848	4,500	61,348
障害者福祉	40	5	8.0	29,920	2,500	32,420
児童福祉	37	8	4.6	27,676	4,000	31,676
保育園	35	8	4.4	26,180	4,000	30,180
中学校	32	4	8.0	23,936	2,000	25,936
老人福祉	27	11	2.5	20,196	5,500	25,696
病院・医療	12	2	6.0	8,976	1,000	9,976
食育講座	9	2	4.5	6,732	1,000	7,732
合計	1,730	370	4.7	1,294,040	185,000	1,479,040

IV. 評価

ボランティア参加に関しては、表1のとおり、保育学科学生の総参加時間数は1,650時間、95.4%と圧倒的多数を占め、実際の参加学生数も保育学科1年生59名、2年生11名で保育学科学生の総数は70名と全体の93.3%を占めた。その背景には、①保育学科では、コミュニケーション能力の向上など教育的観点から積極的にボランティア活動の参加を推奨している②平成26年度より、保育学科の学生を中心とした「ボランティア部」が発足し、学生が積極的に活動に参加している③幼稚園や保育園、特別支援学級・学校など授業の目的と関わる主催者からのボランティアの依頼が食物栄養学科より多いなどの理由があげられる。

一方、食物栄養学科の平成26年度の学生の実質的な活動参加人数は表1のとおり、5名に留まっており、今後、学科としてボランティア活動にどう取り組むのか検討する必要がある。

以上